

DP Coin

テクニカルホワイトペーパー

言語バージョン: 日本語
翻訳者: パサカール彼

ディレクトリ

1.DPプロジェクトの紹介	3
1.1 DP Coinプロジェクトについて	3
1.2 プロジェクトの概要	3
1.3 システム構造	4
1.4 ノードの検証と確認	5
2.DP Chain の紹介	7
2.1 単純ブロック構造	7
2.2 ユーザーアカウントモデル	8
2.3 DP Chain の応用	9
2.4 DP Chain のコア技術	11
2.5 DP Chain の動向	12
3.DP Coin の紹介	13
3.1 全体の経済規模と傾向	13
3.2 DP Coin トークン規模とその配分	14
3.3 DP Coin 価格構築方案と予測	14

1.DP プロジェクトの紹介

1.1 DP Coin プロジェクトについて

DP Coin プロジェクトは DP コミュニティチームが開発したブロックチェーン技術公鎖であり、Pos マイニングを中心化し、サポートし、DAPP の技術面での応用拡張を実現できるシステムであり、本質的には平行拡張の伝統的なブロックチェーンシステムと同等であるが、無限の拡張が可能であり、プロジェクトが使用する技術で ETH をリードし、システムの安全性ではトークンより優れており、秘密鍵の長さは 2 の 64 乗長に達する。DP Coin に基づいて構築されたプラットフォームは、ブロックチェーン技術を脱中心化金融 Defi、脱中心化取引所、脱中心化社交、プライバシー通信、ゲーム決済などの製品にサービスすることができる。ブロックチェーンネットワークを通じてグローバルサービスプロバイダとユーザーを接続し、非中心化金融 Defi とソーシャルエンターテインメントを切り口として信頼性と安全性に基づくブロックチェーン生態を構築する。将来の DP Coin プラットフォームは資金フロー、情報フロー、価値フローの多重プラットフォームであり、DP Coin プラットフォーム上に構築された信頼価値システムの中で、さまざまな人や物がブロックチェーンネットワークを通じて自己価値を伝達し、豊富な価値相互ネットワーク生態を形成し、これは最終的に社会生産効率を大幅に向上させる。

1.2 プロジェクトの概要

ブロックチェーンシステムは現在まで発展し、取引速度はブロックチェーン産業化、例えば DAPP、モノチェーンネットワーク、信頼できるデータ交換などのさらなる発展のボトルネックとなっている。BTC/BCH などは純粋にブロックサイズを大きくすることによって拡張目標を達成するための方法であり、この方法は望ましくない。また、BTC/ETH サブネットワークの方式、例えば稲妻ネットワーク、チェーン横断などの技術は、実際には安全性を犠牲にして TPS を向上させるとともに、取引双方が同時にオンラインでなければならず、担保が必要など、より多くの付帯条件

を備えなければ取引できない。そのため、私たちは上述の問題を解決するために新しいチェーンが必要で、DP Chain によって作られた新しい公チェーンだけが、システムの安全性を保証すると同時に、TPS を高め、そしてブロックの大きさがシステムの境界を超えないことを保証し、システムの基本機能の実現に必要なカップリング解除の付帯条件を下げるができる。

最初の IOTA から現在まで、DP Chain には独自のオリジナリティがあり、革新的で新しいデータブロック式センターを一体化した構造的アルゴリズムであるブロック融合アルゴリズムがあり、高 TPS を保証すると同時に、チェーン上の混雑した問題を解決し、プロジェクトの応用の定着を促進することができ、現在主流の BTC/BCH、Ethereum などの主流の PoW 通貨ブロックと同じ時間に Pending 住取引してパッケージ化しなければならない。異なるノードがトランザクションブロックをパッケージングして相互排他する（Ethereum には GHOST と Uncle Block メカニズムがあるが、十分ではない）すべての違い。高速道路には出口が 1 つしかないことに相当し、道路が何本あっても、走行車両が何人いても、最終的には出口が 1 つしかない。出口速度が車の流れを決め、後ろに並ぶしかない。Epoch 周期により安定したマスターセル MC が生成され、DP Chain 独自のアルゴリズムによりリンクされ、マスターセルの角度から類似したビットコインチェーン構造が形成される。システム中の各構成部分は独立した Partition に分けることができ、相互に取引を妨害することなく取引ブロックの融合を行い、拡張性能の基本条件を実現することができる。この構造では、双花検出は遅かれ早かれ成功し、グローバル角度アルゴリズムでは安定的に一致している。1 つのノードが Epoch のグローバルデータを見ることができ、安定した一致順序付けアルゴリズムを加えると、双花検出は成功する。

1.3 システム構造

DP システムはコンピュータ分野のアルゴリズム研究において、DP アルゴリズムと呼ばれるものもありますが、DP Coin とそれに付随する DP Chain は、その中で採用されているアルゴリズムは、すべて DP アルゴリズムを使用して実現されます。ブロックチェーンの分野では、後に生成されるブロックは前のブロックと現在のチェーン上のデータの状態に基づ

いて生成されるので、DP アルゴリズムを通じて、一定のブロック生成規則を制御すれば、高速なアルゴリズム制御を通じてブロックの高速生成とチェーン上取引処理時の検証と署名を実現することができ、これはシステム自体にとって代表的な意味を持っている。一方、DP に対する私たちの厳密な定義は、ある段階の状態が与えられた場合、この段階以降のプロセスの発展は、この段階以前の各段階の状態に影響されないということです。

Luna に代表されるアルゴリズムによる貨幣安定化は極めて失敗したと考えられる。アルゴリズム自体の役割は貨幣価格のアンカーと安定メカニズムの実現ではなく、アルゴリズムはブロックチェーンの基礎設計に深く入り込み、システムアーキテクチャとその設計構想を融合し、アルゴリズムを通じて優れた貨幣とそのチェーン上のデータ処理能力の総合的な向上を実現するべきであり、これはトークンの品質にとって極めて重要な助けである。

数学的な観点から見ると、動的計画問題にとって、 $f(n)$ の定義にはすでに「最適」が含まれている。 $f(n)$ の最適解を用いて、 $f(n+1)$ の最適解を算出することができる。大問題の最適解は、「最適サブ構造特性」と呼ばれる小問題の最適解から導き出すことができる。

我々のシステム構造は最適なサブ構造の性質を満たす必要があり、そのため、システムは底層で完全な再構築を実現する必要がある。

DP アルゴリズムであれ、他のアルゴリズムであれ、私たちが実現する目的は、解可能な空間で最適解を探すことであり、同様に、伝統的な暗号化技術にとって、対称暗号アルゴリズムであれ、非対称暗号アルゴリズムであれ、量子技術が到来する未来においては、破壊的な打撃に直面し、アルゴリズムを通じて安全性を保障するブロックチェーン技術は、この暴力的な打撃の中で生存する空間を得ることになるだろう。

仮想通貨が備える仮想特性はアルゴリズムによってこの特性の実現を保障する必要があり、暗号学はコンピュータ科学の一部にすぎず、完全に暗号学によって情報システムの絶対的な安全を保障することはできない。

私たちはもっと可能な方法が必要です。

1.4 ノードの検証と確認

DP Chain のネットワークは、高スループット、低遅延、構成可能なビザンチンフォールトトレラント弾性ブロックチェーンネットワークであ

り、このネットワークの最初の応用シーンは波場チェーンブロックチェーンの側鎖となる。この場合、それは「弾性側鎖ネットワーク」と呼ばれることがある。ネットワーク内のサイドチェーンは、ネットワークノードのセットから選択された仮想サブノードのセットによって動作し、各ノードの計算とストレージリソースのすべてまたは一部（マルチテナント）を占めています。各サイドチェーンは高度に構成可能であり、ユーザーはサイドチェーンの仕様、共通認識プロトコル、仮想マシン、親チェーン、および仮想サブノードのローテーション周波数などの追加のセキュリティ対策を自由に選択できます。

DP Coin 通証は実用型と機能性通証である。ネットワークで働く権利を得るためには、ノードは一連のスマート契約（DP 管理者とも呼ばれる）を介して DP Coin のバックグラウンドプログラムを実行する必要があります。ノードがネットワークに承認されると、実行時間と遅延を確認するために 24 のピアノードがランダムに選出されます。これらのメトリックは、定期的に DP 管理者に送信され、ノードがネットワークに参加するための報酬に影響を与えます。

弾力性のある側鎖を作成する場合、ユーザーは必要なブロックチェーン構成を指定し、ブロックチェーンを実行するために必要なネットワークリソースをリースする予定のリース期間に応じて費用を支払うことができます。ネットワークに十分な帯域幅があれば、ブロックチェーン指定の構成計算とストレージ要件を満たすノードが仮想サブノードとしてネットワークに参加します。弾性側鎖の仮想マシンの互換性により、既存の波動場チェーンベースのインテリジェント契約を側鎖上に直接配置することができます。

システムのノードになるためには、潜在ノードがネットワークハードウェア要件を満たすことを保証するために、潜在ノードが DP システムのバックグラウンドプログラムを実行する必要があります。潜在的なノードがこの認証ステップに合格した場合、バックグラウンドプログラムは、DP システム管理者にネットワークへの参加を申請することを許可します。

申請には、必要なネットワーク保証金と、バックグラウンドプログラムによって収集されたノードメタデータ（IP アドレス、ポート、公開鍵など）が含まれます。申請がメインチェーンに提出されると、潜在的なノードがシステムに追加され、「フルノード」または「ライトノード」になります。全ノードは 1 つのフレックス側鎖にすべてのリソースを提供し、ラ

イト 4 ノードは複数のフレックス側鎖（マルチテナント）に参加し、メインシステムはネットワークサイクルごとに、これらの指標を DP システム管理者に一括して提出し、これらの指標はノードの奨励を決定します。

このチェーンは将来的にはすべて DP Chain チェーンに置き換えられます。

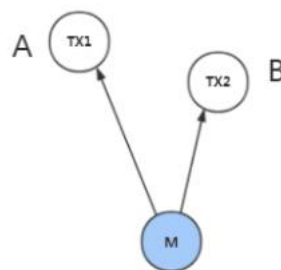
ノードがネットワークを終了するときは、最初に終了メッセージをブロードキャストしてから、終了期間を待つ必要があります。終了期間が終了すると、ノードはアイドル状態になり、ネットワークから最初に保証された保証金を取り戻すことができます。ユーザーが終了期間の終了を待つことができず、ネットワークからすぐに終了すると、DP 仮想サブノードによって不良（死んだ）ノードに分割され、ノードは報酬を得ることができず、ブロックチェーンから削除されます。

上記ノードのノード記述に基づいて、資産分割も同様に上記規則を満たす。

2.DP Chain の紹介

2.1 単純ブロック構造

マスターブロック M は 2 つのトランザクション TX 1 と TX 2 を参照し、PoS ノード A、B、C、D 署名確認を経ている。



Json フォーマットを使用して、簡単なマスターブロック参照と PoS ノード署名を経た構造を記述した場合:

```
{  
  "block":{  
    "hash": "HASHINFO",  
    "time": "TIMESTAMP",
```

```
    "type": "1",
    "diff": "THIS diff",
    "owner": "OWNER ADR OR PUBKEY",
    "nonce": "NONCE INFO"
  }
  "Signers": ["A"],
  "Signinfo": "SIGN CONTENT",
  "sign": "SIGN"
}
```

2.2 ユーザーアカウントモデル

従来の取引システムと同様に、DP システムは残高口座モデルを使用している。各 DP Chain のライフサイクルとコンセンサスサイクル処理により、TXBlock の OUTPUT アカウントが存在しないことが判明した場合、このアカウントは全ネットワークで作成されます。そして、INPUT の Amount をこのアカウントに転送しますが、INPUT は存在し、残高が十分である必要があります。各口座残高は、取引ユニット INPUT と OUTPUT の差によって決定される。あるライフサイクルでは、創世ブロックからその時点まで、アカウント残高 $\text{Balance} = \text{All (INPUT)} - \text{All (OUTPUT)}$ 。各トランザクションユニットは、INPUT 側が ECDSA 秘密鍵で署名し、INPUT 公開鍵でブロック正当性を検証します。

システムは、トランザクション TX の 1 回の実行と複数回の実行の最後の結果が同じであることを確認するために、各 Transaction (後に TX) が状態マシンを介してべき乗等性に処理されることを保証する。

残高を変更するにはロックを同時にかける必要があります。システムの各プロセスと関数には再入力可能性が必要です。したがって、口座残高の修正は、ステータスマシンと同様に、いくつの取引が流入しても、何度も取引が繰り返されても、最終的な結果は一致します。重複取引であるかどうかを判断することは、取引 TX の乱数 Nonce 値に基づいて、Nonce を除いて、パケット全体の hash 値は同じように再入成功と呼ばれ、反対に再入失敗と呼ばれ、システムはこの 2 つの状況をそれぞれ処理する。

同時にアカウントテーブルには、各アカウントには各転出取引の重複取引を検出するための Nonce フィールドがありますが、重複取引が異なる

プールで安定した順序付けを経て、優先度の高いブロックが先に実行され、優先度の低いブロックは実際のブロックを格納せず、ハッシュのみを格納します。次にブロックを更新するときは、優先度の高いブロックを更新しておき、ハッシュだけが実際のブロックの取引をしていないので、前に必ず重複取引があることをチェックしてください。

ユーザは、トランザクションごとに、トランザクションハッシュ情報である完全にランダムなハッシュ値情報を生成し、トランザクションハッシュ情報は、従来のイーサ坊および波場チェーンに存在し、transhx として存在する。

DP システムにユーザが登録したアカウントは、DP Chain システムが正式にネットワーク上で稼働しているときに、DP ネットワークが使用されることにより、DP ネットワークは、DP Chain に基づいて生成されるため、DP Chain のセキュリティ属性を備えたシステム内の各ユーザにアドレス情報と秘密鍵情報を割り当てます。

2.3 DP Chain の応用

アプリケーション層は最終的にユーザーに提示される部分として、主な役割はインテリジェント契約層のインタフェースを呼び出し、ブロックチェーンの各種アプリケーションシーンを適応させ、ユーザーに各種サービスとアプリケーションを提供することである。

デジタル通貨は通貨の発行と記憶の権利を分散し、インテリジェント契約はコードの実行と検証の権利を分散し、デジタル署名はユーザーの資産所有権を確保し、それに基づいて、開放金融の雛形が徐々に現れている。

オープンファイナンスは、ネットワークとデジタル署名に対するユーザーの信頼に基づいて構築され、資産所有権は世界中のノードとネットワークにわたって保護され、資産の確実性のプロセスはマシンアルゴリズムに簡略化されます。ユーザーは仲介なしでスマート契約と対話し、資産操作と交換を行うことができ、金融サービスの効率を大幅に向上させることができる。

イーテル坊が DeFi モジュールを統合し、金融アプリケーションを積み木のように元の基礎の上に革新を構築し続けているとすれば、アプリケーションチェーンはアプリケーションと製品を切り離し、異なるチェーンキャリアの上に分散させることになる。

イーサ坊はインターネット大型機のように、基礎的な共通認識、初期ユーザー、データ、コードを集中的に解決してきたが、ますます肥大化してきた。

アプリケーションチェーンはさらに分散し、製品と製品の間は相対的に分断されており、サービスとサービスの組み合わせを完了するためには基準に依存する必要があります。

同様に、全スタック応用チェーンは新しい方案として完璧ではなく、依然として多くの実際の問題を解決する必要があり、新しいプロジェクトと応用チェーンの融資は多くの困難に直面し、生態の中で基礎サービスと関連ツールが不完全で、初期ユーザーの参入敷居とエーテル坊ユーザーの移転コストが高く、初期トークンの流動性が不足し、共通認識ネットワークが形成しにくいなど、応用チェーンの普及とチェーン横断生態の発展を制約し、開放金融インフラの反復と構築は順風満帆ではない。

一方、DP Chain は、集中した大型コンピュータと独立したフルスタックアプリケーションチェーンとの間でバランスを探し、既存のブロックチェーンアプリケーションの底辺施設の問題を解決しようとしている。

経済面から考えると、コスト削減はブロックチェーン技術の重要な設計思想である。ブロックチェーンシステムでは、参加者は相手の基本情報を知る必要なく取引を行うことができ、「信頼の必要のない信頼」を実現し、従来のモデルの第三者を中心とした信頼モデルを変更した。この設計モデルには多くの革新性があり、その中の2つは注目に値する：第一に、取引信頼は機械とアルゴリズムによって決定される。ブロックチェーンは、機械とアルゴリズムの信頼に依存する取引システムを構築することによって、匿名取引中の相互信頼問題を解決する。すべての参加者は信頼関係を構築する必要がない環境で、暗号学的原理を通じてアイデンティティを特定し、共通認識メカニズムによって相互間の信頼を実現する。第二に、取引プロセスはプログラムによって自動的に実行することができる。ブロックチェーンはプログラム可能な知能契約を通じて、双方が達成した契約を自動的に実行し、人為的な干渉要素を排除し、制度的にどちらかの言い逃れを防止する。これにより、経済社会がスマートな状態に入ることを推進し、現在の経済取引システムの質の飛躍を実現する。ブロックチェーン技術の「弱中心化」特性に基づいて、既存の経済システムは現在の制度的制約や第三者機関による裏書から離脱し、双方は直接価値交付を実現する

ことができる。このような「弱中心化」特性は、取引コストを効果的に削減し、取引効率を高め、取引の一貫性による摩擦を減らすことができる。

ブロックチェーンは一般的に言えば、複数の参加者による信頼性の高い分散型データストレージシステムと見なすことができ、その独特な点は、1つは記録行為の複数の参加、すなわち各参加者が記録に参加できること、第二に、データストレージの複数の参加、共同メンテナンス、すなわち各当事者がデータのストレージとメンテナンスに参加すること、3つ目は、データと契約をチェーンで格納し、読み取りと書き込みのみが可能で、改ざんはできません。応用実践において、このようなシステムはすべての参加者の情報共有、共通認識、共同負担を実現することができ、各種の商業行為と組織機構のインフラストラクチャになることができる。

2.4 DP Chain のコア技術

ブロックチェーン技術は単一の技術ではなく、多方面の研究成果を統合した総合的な技術システムである。その中には、共通認識メカニズム、暗号学的原理、分散データストレージの3つの不可欠なコア技術があると考えられています。

第一に、共通認識メカニズム

コンセンサスとは、複数のノードが事前に設定されたルールの下で、複数のノードを介して何らかのデータ、動作、またはプロセスに対してインタラクティブに合意するプロセスを指します。コンセンサスメカニズムとは、コンセンサスプロセスを定義するアルゴリズム、プロトコル、ルールのことです。ブロックチェーンの共通認識メカニズムは「少数が多数に従う」及び「誰もが平等である」という特徴を備えており、その中の「少数が多数に従う」は完全にノード個数を指すわけではなく、計算能力、株式数又はその他のコンピュータが比較できる特徴量であつてもよい。「誰もが平等である」とは、ノードが条件を満たす場合、すべてのノードが共通認識結果を優先的に提出し、他のノードに直接認められ、最終的には最終的な共通認識結果になる可能性があるという権利である。

第二、暗号学の原理

ブロックチェーンにおいて、情報の伝播は公開鍵、秘密鍵という非対称デジタル暗号化技術によって取引双方の相互信頼を実現する。具体的な実装過程では、公開・秘密鍵ペアのうちの1つの鍵ペアを介して情報を暗号化した後、別の鍵でしか解けないプロセス。そして、いずれかの鍵を公開した後（すなわち公開された公開鍵）、公開された公開鍵に基づいて他の非公開鍵（すなわち秘密鍵）を推定することはできない。

第3、分散型ストレージ

ブロックチェーンにおける分散型ストレージは、参加するノードそれぞれが独立した完全なデータストレージを持っています。従来の分散型ストレージとは異なり、ブロックチェーンの分散型ストレージの独自性は主に2つの側面に表れています。

1つ目はブロックチェーンの各ノードがブロックチェーン構造に基づいて完全なデータを格納することであり、従来の分散ストレージは一般的にデータを一定の規則に従って複数の部分に分けて格納することである。

第二に、ブロックチェーンの各ノードストレージは独立しており、地位は同等であり、共通認識メカニズムによってストレージの一致性を保証しているが、従来の分散ストレージは一般的に中心ノードを通じて他のバックアップノードにデータを同期させる。データノードは、異なる物理機械であってもよいし、クラウドの異なる例であってもよい。

2.5 DP Chain の動向

ブロックチェーンは既存の経済社会に大きな影響を与え、人間のインターネット活動形態を再構築することが期待されている。

ブロックチェーンの最近の発展傾向には、主に次のような点があります。

第一に、アプリケーションモードのアップグレード。

共有チェーンの安全性と取引量が日増しに増加する現在のネットワーク容量間のバランスの問題を考慮して、将来のブロックチェーンの応用分野はアライアンスチェーン、プライベートチェーン、または混合チェーンを主とする。ビットコインモデルはブロックチェーンネットワークの維持コストを増加させ、低価値で低リスクな取引には完全に適用されない。効率性と安全性の向上を考慮すると、将来はアライアンスチェーン、プライベートチェーン、または

アライアンスチェーンとプライベートチェーンからなるハイブリッドチェーンで構成されます。

第一に、多中心化。

将来のブロックチェーンシステムアーキテクチャは信頼できるマルチセンターシステムを構築し、独立したそれぞれのシングルセンターを分散させ、多方面が参加する統一的なマルチセンターに昇格させ、信頼伝達効率を高め、取引コストを削減する。すなわち、情報が非対称で不確定な環境下で、各種活動の発生、発展に依存する「信頼」生態系を確立する。

第二に、金融革新から他の業界の応用突破を牽引する。

ブロックチェーンの応用分野は、まず取引の各当事者に相互信頼を構築する必要があるが、金融、証券、保険などの信頼関係を構築するのが容易ではない分野から切り込む。アプリケーションの普及と社会認知度の向上に伴い、ブロックチェーンは社会の各分野に徐々に浸透していこう。例えばブロックチェーンはすでに政治選挙、企業株主投票、博彩、予測市場などの分野に初歩的に応用されている。

第三に、スマート契約の社会化。

将来的には、すべての契約型の約束は知能化を実現し、知能契約を利用することで、すべての約束の信頼できる実行を保障し、改竄、言い逃れ、違約を回避することができる。ブロックチェーンは、社会における有形資産をデジタルインテリジェント資産に変換して権利の確定、授権、リアルタイム監視を行うほか、知的財産権保護、ドメイン名管理、ポイント管理などの社会における無形資産管理にも応用できる。

3.DP Coin の紹介

3.1 全体の経済規模と傾向

現在、ブロックチェーン経済は爆発期前夜にある。

金融業界の応用はすでに比較的広く、他の業界の応用状況も研究開発段階に入った。この新型経済形態の将来のマスについて、次のような試算がある：

ダボスフォーラムの創始者クラウス・シュワブ (Klaus Schwab) 氏によると、ブロックチェーンは蒸気機関、電氣化、コンピュータに続く第4次産業革命の重要な成果として、2025年までに世界GDP総量の10%がブロックチェーン技術を利用して貯蔵される見通しだ。

市場研究機関Gartnerの予測によると、2020年にはブロックチェーンベースのビジネスは1000億ドルに達し、金融業のほか、製造業とサプラ

イチェーン管理業界はブロックチェーンに兆ドル級の潜在市場をもたらす。

研究コンサルティング会社 MarketsandMarkets は、特集調査報告 1 の中で、2016 年から 2021 年の間に、世界のブロックチェーン市場の応用と方案サプライヤーの複合年平均成長値が最高になると予測している。

このようなベンダーのビジネスには、支払い、書類証明、取引、および企業の運用効率を向上させるためのその他のプログラムが含まれます。ブロックチェーン技術に関わる業界の中で、銀行、証券業、保険業が最も市場シェアを占めている。将来的には、ブロックチェーン技術主導の下での娯楽とメディア業界の発展速度は持続的に加速し、医療健康、モノのインターネット、サプライチェーンなどの業界応用はそれに続く。

そのため、DP Coin は今回の産業変革を通じて、時代のチャンスをつかみ、時代を超えた経済システムを構築し、時代の産物になる必要がある。

3.2 DP Coin トークン規模とその配分

- ・ 総量: 10 億
- ・ 40% コミュニティへの投資と招待奨励金
- ・ 20% 質押掘削と節点奨励
- ・ 5% 初期生態建設
- ・ 5% プロジェクト準備金 (ロック)
- ・ 15% コミュニティ開発者
- ・ 10% プロジェクトグループメンバー
- ・ 5% コミュニティアクティビティとプロジェクトアクティビティの保持

3.3 DP Coin 価格構築方案と予測

- ・ 2023 Q1-Q2 DP システムの開発と構築。

- ・ 2023 Q3 DP システムが正式に使用され、DP Coin 空投行動と DP システム的活動を開始する。
- ・ 2023 Q4 ユーザー数が 100 万人を突破すると予測し、メールアドレスのアカウント検証プログラムと質押掘削システムを起動する。
- ・ 2024 Q1 オープン DP システム振替機能とシステム回収機能により、公式回収価格予測は 1 USDT: 1 DP Coin に維持される。
- ・ 2024 Q2 投資家とユーザー層を通じて、世界トップ 10 の取引所に進出し、プロジェクトグループの回収価格を徐々に引き上げ、同時に 0.3 USDT を下回らないことを保証し、価格のハードアンカーを実現する。
- ・ 2024 Q3 DP Chain メインネットワークが正式に稼働し、オープンソースとなり、投票システムがオープンする。
- ・ 2024 Q4 DP プロジェクトは非中心化管理を行い、コミュニティが引き継ぐ。